

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【常盤北小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	今後も漢字を正しく使うこと、乗法・除法の計算の定着を図れるように、単元を通して計画的な授業づくりをしていく。加えて、授業の内容に応じて振り返りをしっかり文字に表して書く、読書タイム等活字に触れる機会を増やす。単元終盤やチャレンジタイム等での計算の習熟といった活動を根気強く進めていきたい。
思考・判断・表現	今後も自分の考えをもち、他者と意見を比較検討する活動を、児童の実態を見極めながら継続して行っていく。授業において、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができるように、各教科の授業で、根拠資料を基に、自己の考えをまとめる活動を引き続き重視していきたい。来年度は、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を92%以上を目指す。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p><学習上の課題>国語の漢字を正しく使うこと算数「加法と減法」の問題場面の数量関係を捉え、式に表わす正答率が低い。</p> <p><指導上の課題>児童が自らの学びを振り返る時間を確保するための授業マネジメント力の向上。</p>	⇒ 「ドリルパーク」や「スタディサプリ」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む【毎日の宿題や授業開始時の実施】授業中に児童が学びを振り返る時間を設定し、次の学びに生かせるようにする【毎時間設定】
思考・判断・表現	<p><学習上の課題>国語・算数の「思考・判断・表現」の記述式問題の無解答率が高い。自分の考えを論理的に説明することに対して苦手意識がある。</p> <p><指導上の課題>子ども主体の学びとなるような授業実践事例の蓄積。</p>	⇒ 他者との協働を通じて自分の考えを比較、検討する場面を多く設定するなどの実践を取り入れていく。また、学習の進め方を児童に選択、決定させる学習を多く取り入れていく。【単元を通して計画的に実施】

全国学力・学習状況調査
＜小6・中3＞(4月～5月)

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	B	<p>ドリルパークやスタディサプリ等を児童の定着状況に応じて活用し、基礎・基本の定着を進めたことで、R6さいたま市学習状況調査「算数」「社会」「理科」ともに各学年のさいたま市の平均を上回る結果となった。</p> <p>課題やまとめ(振り返り)を自ら考えさせる活動を年間を通じて行い、目的意識をもたせたことで、基礎が定着してきた。R6年度さいたま市学習状況調査の算数5・6年において「数と計算に関する区分」では、同集団比較においてR5年度の結果を上回った。</p> <p>「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目では、R6年度さいたま市学習状況調査における肯定的な回答の割合は90%を超えた。</p>
思考・判断・表現	B	<p>R6さいたま市学習状況調査「国語」「算数」「社会」「理科」ともに各学年のさいたま市の平均を上回る結果となった。</p> <p>教科ごとに活動の中で、共同編集が有効にはたらく部分を単元ごとに位置付け、協働的な学びにつなげる素地をつくることができ、R6年度さいたま市学習状況調査の5・6年算数・理科において「思考・判断・表現」では、同集団比較においてR5年度の結果を上回った。</p>

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	<p>算数の「図形」領域において課題がみられた。円周の長さを直径の長さの何倍になるか見通しをもてていないことが考えられる。</p> <p>「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」における肯定的な解答の割合が95%であった。今後は、図形についての基礎的・基本的な知識・技能を丁寧に行うことを意識するだけでなく、図形を構成する要素を見いだし、活用できるように授業実践していく。</p>
思考・判断・表現	<p>国語の目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるようにするための書き表し方に課題がみられた。事実と感想、意見と明確に区別せずに、自分の考えをもつことができなことが考えられる。</p> <p>5W1Hを意識し、文章の理解を深めることやインタビューを行った学習を行う際、一問一答形式で行わず、意図を考えた内容を精査した活動を重視したい。</p>

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	<p>全学年国語の「正しい漢字に直す問題」において一部課題がみられた。今後は、漢字の意味を考えながら使っていき活動を大切にしていく。</p> <p>算数「商と余り」、「3位数×3位数の乗法」、「1小数の除法」において四則演算に課題が見られた。今後は、計算の方法だけではなく意味を考える活動を大切にしていく。</p>
思考・判断・表現	<p>国語の目的に応じて、中心となる語や文を捉えて文章を読むことや登場人物の相互関係や心情などについて描写を基に捉えながら読むことに課題がみられた。また、自分の考えが伝わるように、適切な図表を用いて書き表すことについても課題が見られた。今後は、各学習活動において、自分の思いや考えを自分の言葉で表現できるような機会を意図的に設定していきたい。</p>

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	<p>「ドリルパーク」や「スタディサプリ」等を児童の定着状況に応じて活用し、基礎向上を進めた。例えば、算数では新しい単元に入る前に、関係の深い既習事項の定着を図ることで、基礎的な知識をスパイラルに積み重ねつつある。国語では、単元ははじめに立てた目標と照らし合わせて振り返りを行うことで、自己の課題を明確にし、次時に生かそうとする児童が出てきた。</p>	<p>(追加)学びの振り返りの充実を行う。例えば、スクールダッシュボード「授業アンケート」(形成的授業評価)等を適切に実施し、個人の学びに生かすことができるような授業づくりを行う。【単元を通して計画的に実施】</p>
思考・判断・表現	B	<p>自分の考えをもち、他者と意見を比較検討する活動を、児童の実態を見極めながら継続して行なった。例えば、理科では、課題から実験方法をグループ毎に検討し、安全性を教員と確認後、実際に実験することを継続して行なった。結果、説得力のある考察をグループごとに話し合い、比較する活動ができ、深い学びにつながっている。</p>	<p>(追加)ICT機器の効果的な活用を行う。例えば、題材や課題に応じて、適切に「オクリンプラス」等のアプリを活用する。他者の考えとの比較検討を必要な時に必要だけ行うことができる学習環境づくりを題材に合わせて計画し、実践する。【単元を通して計画的に実施】</p>

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)